

# ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

81

2014. 10. 31

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）などの兵庫県内の協同組合運動相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指してー協同が息づくまちづくりー」を『基本理念』として、協同組合の「共通行動目標」の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ .....1
2. ひょうご安全の日推進事業 第92回国際協同組合デー  
兵庫県記念大会を開催 .....2~3
3. 「兵庫におけるポスト国際協同組合年を  
考える集い」を開催 .....4~5

Contents

4. 今協同組合ではー各協同組合からの報告ー .....6~7
  - 生協/JA（農協）
  - JF（漁協）/JForest（森林組合）
5. 協同組合運動に生きる  
「協同組合に生きる人として」  
兵庫県漁業協同組合連合会  
組織統括本部 広報部 主任 西本 広幸 .....8

## ● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

### 2014広島被爆ピアノ平和コンサートを開催

#### 被爆ピアノ平和コンサート



#### 生協

今年で6回目となる「広島被爆ピアノ平和コンサート」を8月20日に開催。尼崎地域で活動するゴスペルコーラスサークルの皆さまとともに約200人が集い、次世代に語り継ぐ平和への想いを新たにしました。

### 農産物直売所「三木みらい館」が来店者数150万人を突破



#### JA（農協）

JA兵庫みらい農産物直売所「三木みらい館」は9月5日、来店者数150万人を達成しました。

### 第3回魚食を推進する会



#### JF（漁協）

JF浜坂ヘコブこうべ 第2地区の組合員の方がとれびちの産地交流会に来られました。当日は、ハタハタや赤ガレイを使った浜の郷土料理を女性部とコブこうべ組合員がコミュニケーションを取りながら作り、出来た料理を試食しながら交流を深めました。

### プロセッサによる造材作業研修



#### JForest（森林組合）

「緑の雇用」事業においてプロセッサで造材作業研修を行いました。

#### ●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）  
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives  
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

#### ●兵庫JCC事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL (078) 391-8634  
兵庫県農業協同組合中央会 TEL (078) 333-5896  
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL (078) 940-8013  
兵庫県森林組合連合会 TEL (078) 341-5082

## ひょうご安全の日推進事業 第92回国際協同組合デー兵庫県記念大会を開催



講演を行う谷五郎氏（兵庫県民会館にて）

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）は7月4日、神戸市中央区の兵庫県民会館けんみんホールで「協同の力で未来を拓く」をテーマに、「ひょうご安全の日推進事業 第92回国際協同組合デー兵庫県記念大会」を開催しました。国際協同組合デーは、全世界の協同組合員が心一つにして協同組合運動の発展を祝い、平和とより良い生活を築くために運動の前進を行う日です。県内から、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の組合員や役職員、一般参加者ら、約360人が参加しました。

第1部では、4団体を代表して生協連本田英一会長理事によるあいさつの後、兵庫県漁協女性部連合会森武美会長が、「本年度は阪神・淡路大震災20周年にあたり、東日本大震災も3年目を迎える。復興に向けてこれからも協同組合の垣根を越えた支援活動が必要。また、協同組合の原点に還り暮らしよい兵庫と協同組合の発展を目指す」と兵庫JCC宣言を朗読し、満場一致で採択されました。

第2部では、ラジオ・パーソナリティの谷五郎氏から「阪神・淡路大震災20年を迎えます。あの日、放送し続けて」と題して講演をいただき、会場は大いに盛り上がりました。



代表あいさつをする生協連本田英一会長理事



兵庫JCC宣言の採択に満場一致の拍手を送る

## 第92回国際協同組合デー兵庫JCC宣言

一昨年、2012年は国連の宣言した国際協同組合年であり、協同組合がこれまで社会経済や食料安全保障、金融危機等の面で果たしてきた役割を国連が高く評価し、国連からの各国の協同組合にこれらの問題にいっそう強力に取り組んでもらいたいという期待に応え、国を越えて様々な協同組合間連携が行われました。

そして昨年、2013年は兵庫JCC創立30周年を迎え、県内の協同組合間の連携は今までよりも更に強固なものになり、各協同組合の様々な事業の中で協同組合間連携の成果を生みつつあります。

そして本年は先の2年間を踏まえて、地域社会や経済、安全安心な食料の供給、環境の保全等において、協同組合の果たす役割とは何かを改めて見つめ直し、これからどのように協同組合同士が手を取り合い発展していくか、大きなターニングポイントを迎えています。

また、本年度は阪神・淡路大震災後20周年にあたります。

20年前の1月17日、震災は多くの尊い命を奪い、地域社会へ壊滅的なダメージを与えました。

しかし地域のつながりはもとより、日本各地より寄せられた温かい支援が復興への励みとなりました。

こうした経験から私たち協同組合組織も3年前に起こった東日本大震災の被災者の方々に支援活動を続けています。被災地の一日も早い復興を祈りつつ、これからも協同組合の垣根を越え、心をひとつにした活動が望まれます。

本日、第92回国際協同組合デーの開催にあたり、生協、農協、漁協、森林組合など、兵庫県内の協同組合に集う私たちは、今こそ協同組合の原点に還り、私たちの身の回りから協同の関係をつくり出すことはもとより、「食の安全・安心」や「環境の保全」にかかる取り組みをさらに前進させるとともに、「協同の力で未来を拓く」をスローガンに、暮らしよい兵庫と協同組合の発展をめざし、一層努力していくことをここに宣言します。

2014年7月4日

第92回国際協同組合デー兵庫県記念大会



兵庫JCC宣言を読み上げる兵庫県漁協女性部連合会森武美会長

## 「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」を開催

兵庫県内の協同組合4団体（生協、農協、漁協、森林組合）で組織する兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）は9月26日、協同組合間の相互理解と交流を目的に「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」を開催。若手職員を中心に計32人が参加しました。

初めに賀川記念館で、同館の西参事から「賀川豊彦がめざした愛と協同の社会とは」と題して講演があり、その後館内の視察が行われました。

### 賀川記念館にて



賀川記念館で講演する西参事



賀川豊彦の功績を学ぶ参加者たち



賀川記念館展示物



賀川豊彦について学ぶ参加者

### 参加者の声

#### 生協

- ・賀川先生の功績を学ぶとともに、生協職員の心構えを整理できました。
- ・生協の本質（職員は人のために働く集団）に感銘を受け、誇りに思いました。
- ・協同組合の強みである人とのつながり、他団体とのつながりを大切にして防災啓発の学習会やイベントを実施したいです。

#### JA（農協）

- ・協同組合の成り立ちや理念について学ぶことができ大変有意義でした。
- ・他の協同組合の方と話していく中で、協同組合間協同にはまだまだ広がりがあると感じました。
- ・災害時には地域コミュニティが果たす役割は大きいです。普段から地域コミュニティのつながりを広められるようなイベントを開いていきたいです。

## 人と防災未来センターにて



東日本大震災で問題となった液状化について説明を受ける参加者



画面をタッチして見ることができるハザードマップ



ワールドカフェで話し合う参加者



ワールドカフェで発表する参加者

続いて、今年度は阪神・淡路大震災から20年を迎えることから、人と防災未来センターで減災の取り組みについて研修。また、参加者らはお茶等を飲みながら気さくに会話を交わす「ワールドカフェ」を体験し、終始、和やかな雰囲気の中で協同組合間交流が行われました。

参加者からは「賀川記念館では、時代が流れても変わってはならない『不易』の部分について学ぶことができた」「防災センターでは緊急時における協同組合の重要性に気づくことができた」「この集いを通して得られた気づきを日々の業務の中でも生かしていきたい」との意見が聞かれました。

## 参加者の声

## JF (漁協)

- ・重要であるにもかかわらず日々の業務に追われて考えることがあまりできていない協同組合の本質。今日の集いはそのことを考える良い機会となりました。
- ・他の協同組合と話していく中で業務について知ることができ、また交流を深められて、視野を広げることができました。
- ・災害が起こった際には、協同組合人として助ける立場に立つことが大切だと感じました。

## JForest (森林組合)

- ・賀川記念館での西参事の講演では、考えなければならぬことが多々ありました。また心に残る言葉も多くあり、感銘を受けました。
- ・ワールドカフェでは、災害防止のために山の手入れを行うなどの意見が出ていました。協同組合間での連携を通してこうした活動がさらに有効に行え情報が共有できると思います。
- ・組織としてだけでなく、個人でも災害に備えていくことの大切さに気付きました。

# 今 協同組合では —各協同組合からの報告—

## 生協から

### 第64回通常総会を開催



すべての議案が可決されました

6月24日、兵庫県民会館で、兵庫県生協連第64回通常総会を開催しました。はじめに、本田英一会長理事が「来年は阪神・淡路大震災から20年。震災の経験と教訓を次世代へ継承することの大切さが、改めて認識されています」とあいさつ。続いて2013年度活動報告、2014年度活動計画(案)など8つの議案について審議し、すべての議案が満場一致で可決されました。その後、地域・職域、医療、大学、共済生協それぞれの分野の会員生協から、「市役所生協としての取り組み」、「病児・病後児保育事業」、「園田学園女子大学生協の経営再建」、「阪神・淡路大震災20年の取り組み」と題して2013年度の活動報告が行われました。

### 消費者行政の現状を学ぶ ～「生活科学総合センター」を見学研修～

7月31日、生活問題研究会メンバー、事務局7人で兵庫県立健康生活科学研究所 生活科学総合センターを訪問。センターでは、主に「消費生活相談への対応」「商品テスト」「事業者指導の強化」を中心に市町の消費者行政を支援しています。「昨年の消費生活相談件数50,352件。『インターネットサービス』や『投資関連』の、70歳以上のトラブルが増加。さらに地域での見守りが重要である」というお話を伺いました。参加者からは「ものごとへの判断基準を知っていくことが、消費者として自立することだと思う」などの感想が寄せられました。今年、兵庫県から生協による消費者トラブル防止事業啓発の取り組みを支援したいとの提案を受け、すべての会員生協で啓発チラシの配布を行い、消費者トラブル防止を広く呼びかけています。



無響室で製品の騒音や音質を測定し、商品テストを行っています

## JA(農協)から

### ファーマーズマーケットで「丹波篠山黒枝豆」をアピール



黒枝豆のスカイツリー大会で優勝した参加者

篠山市の特産「丹波篠山黒枝豆」の販売促進イベントが10月11日、JA丹波ささやまのファーマーズマーケット味土里館で開催されました。このイベントは、大粒で糖度が高く、独特の風味がある「丹波篠山黒枝豆」を丹波篠山ブランドとしてアピールする目的で行われ、早朝から大勢の観光客が訪れました。

同会場では、3分間で400gの黒枝豆を高く積む「黒枝豆のスカイツリー大会」が行われ、小学生以上の9人の参加者が出場しました。参加者の家族が見守る中、孫と参加した治田(はるた) 佐代子さんが優勝しました。

治田さんは、「黒枝豆を高く積むのは難しかったが、孫との思い出作りができて良かった」と笑顔で語りました。

## JF (漁協) から

### ～協同組合間連携「とれびち」～

昨年7月からコープこうべとJF兵庫漁連による協同組合間連携事業、ひょうご地魚推進プロジェクト・通称「とれびち」が始まり一年余りが経過しました。

その間、コープこうべ第2地区とJF浜坂の交流会をキックオフとして始まった、「魚食を推進する会」を皮切りに兵庫県各地でコープこうべ組合員を対象とした料理会や学習会、産地交流会等が開催され、これまでに全23回、のべ686人のコープこうべの組合員が参加され、兵庫の魚の調理法や知識、産地の実情等を学習していただいています。

さらに、この料理会や学習会、産地交流会は来年1月までに19回開催予定で、どんどんお申込みをいただいております。

この料理会や学習会、産地交流会等に参加されたコープこうべ組合員は店頭などで、他の組合員に料理会や学習会、産地交流会等で学習された兵庫の魚の調理法や知識、産地の実情等や兵庫の魚の美味しさ、魚を食べる事が生活を守る事に繋がっている事を広めていただいています。

この「とれびち」が始まって以来、兵庫の地魚の消費量が増え、コープこうべの店舗では、魚離れにより苦しい戦いが続いていた魚売り場も、地魚の賑わいの影響で活気を取り戻しつつあるという声を聞く事が出来ました。

「とれびち」を通して協同組合間連携の強さを改めて実感しています。

このような協同組合間連携事業を通じて魚離れを抑止し、日本の伝統である魚食文化の継承に繋げ、さらに兵庫の魚のファンが増える事を願うばかりです。



赤穂市坂越にて漁業体験



コープこうべの運営委員およびクッキングサポーター対象の講習会



コープこうべと淡路地区漁青連との産地交流会

## JForest (森林組合) から

### 平成26年度「緑の雇用」現場技能者育成対策事業について



グループワーク研修

事業体で新規に採用された方（緑の研修生という）に対し、各事業体においてOJT研修をするとともに、兵庫県森林組合連合会では県内の研修生を一堂に会し、様々な知識や技能を身につけられるようグループワーク研修や間伐研修などを実施しています。

県下では本年度、約50人が緑の研修生として研修を受けており、将来の林業の担い手としての活躍が期待されています。

兵庫県の森林面積は、県土面積の67%（56万3千ヘクタール）を占めています。森林は木材などの林産物の供給のほか、山地災害の防止、水資源の涵養（かんよう）などの公益的機能を有しています。

森林が持つこのような機能を十分に発揮し、安定して木材を供給するためには、森林の整備が必要ですが、兵庫県においても森林の整備は遅れがちになっており、現在、森林で働く高度な技術を有した担い手を必要としています。

「緑の雇用」事業は、森林の仕事を担う現場技能者を育てる事業体に助成を行う林野庁補助事業で、



間伐研修

## 協同組合運動 に生きる

# 協同組合に生きる人として

兵庫県漁業協同組合連合会 組織統括本部 広報部 主任 西本 広幸



私がJF兵庫漁連に入会したのは2006年で、漁業者に網やロープ、長靴などの産業資材を販売する資材部という部署に着任いたしました。

この部署は直接漁業者に対して商品を営業に行き購入していただく。そして、ご購入いただいた商品を配達するという業務内容で、毎日漁業者と顔を合わせる部署でした。

それまで周りに漁業者のいなかった私は、最初は漁業者の声の大きさや、荒っぽいイメージが先行していた事もあり恐る恐る話しかけると言う状態でした。

しかし、漁業者と触れ合う日々の中で徐々に漁業の現場で働く漁業者の情の厚さを感じ、一見して口が悪いように見える事もシャイな部分の照れ隠しな部分も多々あるという事を感じるようになりました。

また、私はたつの市以西の牡蠣養殖が盛んなエリアの担当となり、トラックで浜を走り回る日々を過ごしていました。

そんな中で、沢山の漁業者の方に助けられてきました。

そして、部署が変わり、会う機会が少なくなった今でも、その時に知り合った漁業者の方からは、「元気にしてるか」と電話をいただく事も多く、会えば「久しぶりやな、最近どうや」と声をかけていただける、そんな関係を作れた事は非常に幸せな事だと感じています。

また、漁協には青年部という若手漁業者の組織があり、この青年部の事務局も担当しておりました。

この事務局は、それまで資材部として漁業者と係わってきた中で持っていた漁業者に対するイメージが大きく変わるきっかけとなりました。

資材部の営業としての漁業者との係わり方は、漁業を良くしたいと言う思いは一緒であれ、どうしてもお客様という側面が非常に強く、どこかよそよそしい部分があったように感じています。

しかし、青年部の事務局を担当して、一緒に何か一つの仕事をするという感覚で漁業者から接していただき、より漁業を良くしたいという思いが強くなるきっかけとなりました。

そして、この事務局業務を通して、自分の勤めている組

織は協同組合であるという事を改めて認識する事が出来ました。

2012年に広報部という「ひょうごのお魚ファンクラブ SEAT-CLUB」を運営し、魚食普及を推進する部署に着任し、JCCの事務局も担当しています。

広報部の業務の中で、コープこうべと協同組合間連携し取り組んでいるひょうご地魚推進プロジェクト・通称「とれびち」という事業があります。

これは、魚を食べる事が環境や国土を守るという事を消費者であるコープこうべの組合員の方に知っていただき、兵庫県内の魚の消費を拡大し、地産地消の推進や伝統的な日本の食文化を守るという取り組みです。

今、日本では魚の消費がどんどんと減少し、伝統的な魚食文化が失われつつあります。

そして漁業の現場は環境の変化により魚が獲れない、また魚の消費が減り魚を獲っても売れない、という非常に厳しい状況にさらされています。

このような厳しい状況では自分の子供たちには漁業をさせられないと、代々受け継がれてきた家業である漁業を継がせず、自分で終わりにしようと考えている漁業者が多数になってきています。

このため、兵庫の漁業者は半分以上が60歳代という年齢構成になっています。

このような現状を改善し、自分の子供に漁業を継がせたいと思うような漁業にしていかなければならないと強く感じています。

協同組合間連携である「とれびち」を通じて、漁業の実態を多くの方に知っていただき、地元の魚を食べる事が漁業を守り、ひいては日本人としての生活を守る事に繋がっているという事を感じとっていただきたいと考えています。

これからも私は漁業協同組合に生きる人間として、漁業をよりよいものにするために、ひいては日本国民として、日本の生活・文化を守るために協同組合の一員として全力を尽くしたいと感じています。